

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

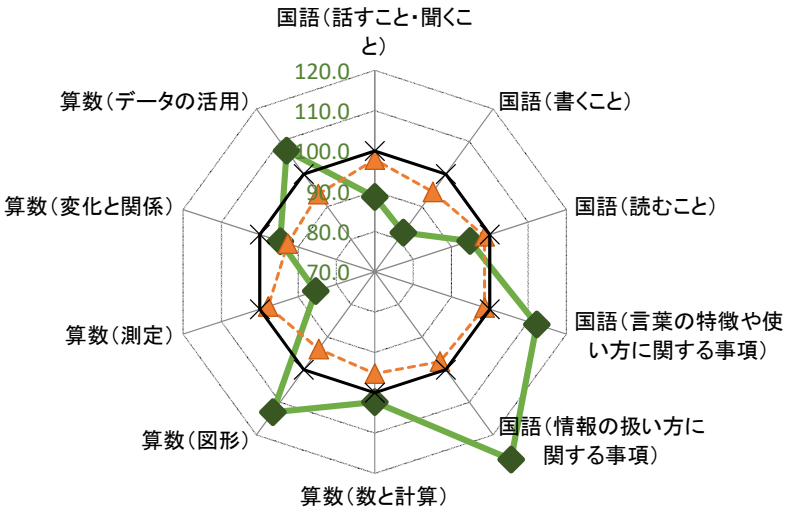
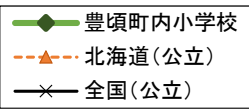
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

【平均正答率・平均IRTスコア】

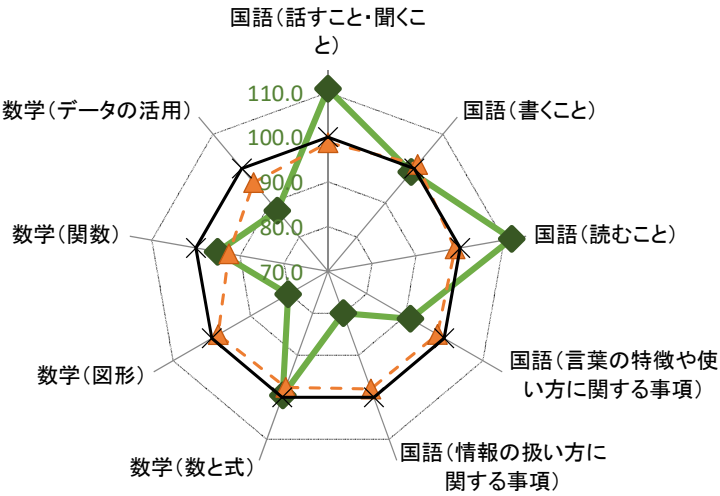
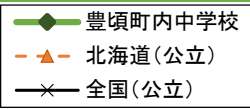
※中学校英語は4技能(聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと)の平均IRTスコア

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
豊頃町	62	58	64	52	456
北海道(公立)	59.6	53.6	63.3	55.0	490
全国(公立)	60.9	56.4	63.9	57.0	499

小学校



中学校

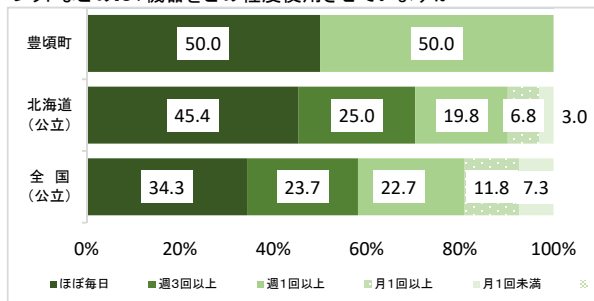


○ 質問調査の状況

小学校

<学校質問>

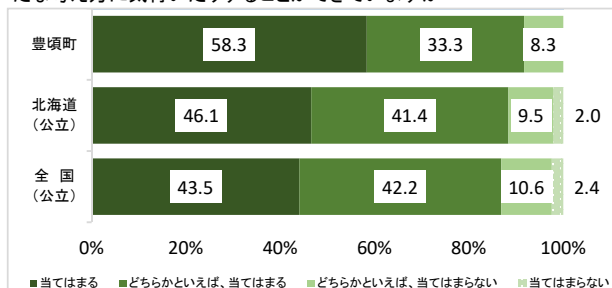
児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



小学校

<児童質問>

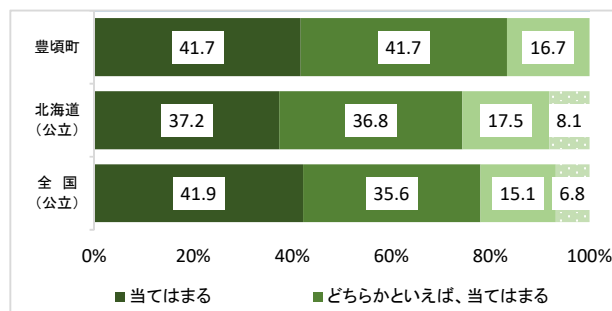
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



小学校

<児童生徒質問>

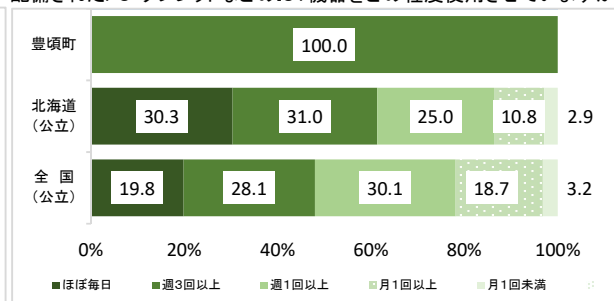
算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか



中学校

<学校質問>

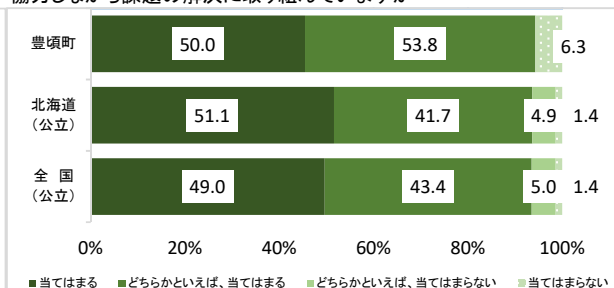
生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



中学校

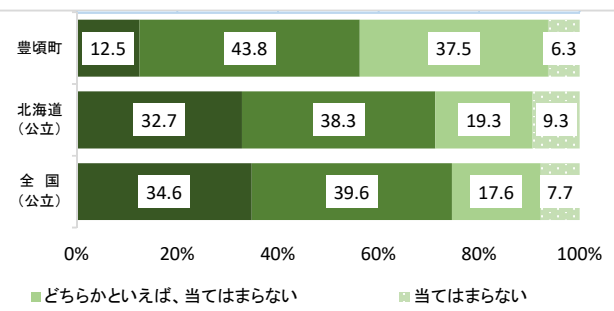
<生徒質問>

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



中学校

算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか



○ 調査結果の分析

<成果>

- ・国語を中心に、基礎的・基本的な学力が一定程度身に付いている。全国と比較して、小学校では「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」、中学校では「話すこと・聞くこと」「読むこと」が全国平均正答率を上回っており、言葉に関する知識・技能や文章を読み取る力が着実に育まれている。
- ・対話的・協働的な学びが充実している。小学校では「友達との話し合いを通じて考えを深めたり、新たな考えに気付く」、中学校では「友達や周りの人の考えを大切にする」の肯定的回答が全国を上回っている。ICTの活用も進み、互いの考えを交流し、発表・表現する授業が充実していることが成果として捉えられる。

<課題>

- ・算数・数学において、基礎的・基本的な知識・技能の定着と、それらを活用して問題を解決する力に課題が見られる。特に中学校数学では、平均正答率が全国を下回るとともに、「授業内容がよく分かる」とする生徒の割合も低い状況にある。小中9年間の学びの系統性を踏まえ、つまづきを把握し、確実な定着を図る必要がある。

○ 今後の改善方策

- ・小中9年間の学びの系統性を意識し、算数・数学を中心に、基礎・基本の確実な定着を図る。併せて、「なぜそうなるのか」を説明したり、友達の考えと比較したりする問題解決型の授業を充実させ、「分かる授業」から「できる・使える授業」への転換を図る。